

2007 年度 1 学期「多言語・多文化社会論入門 I」総合科目 VI (9441)

学生グループ・プレゼンテーションについて

1. はじめに

多言語・多文化社会論入門では、毎週のレスポンス・シートの提出（40%）と 7 月 10 日のワークシートの提出および 7 月 17 日の学生グループによるプレゼンテーション（60%）によって総合的に評価をおこないます。プレゼンテーションは 1 学期の授業の総まとめとして重要な位置づけがなされています。

そのため、最終週に先立つ 7 月 10 日には、プレゼンテーションに向けてのグループワークをおこない、プレゼンテーションに向けての準備をおこないます。以下の説明をよく読んで、プレゼンテーションを成功させてください。

2. グループワークの進め方

まず、グループごとに進行役と記録役を決めてください。進行役はポストイットと大判の白紙を用意し、メンバーの意見の取りまとめをおこないます。記録役は各メンバーの発言の要点を記録していきます。グループワークは 3 段階で進めます。

【ステップ 1】 テーマ 1：「コースを終えてみて、あらためて日本は外国人労働者にとって住みやすいと思いませんか？」

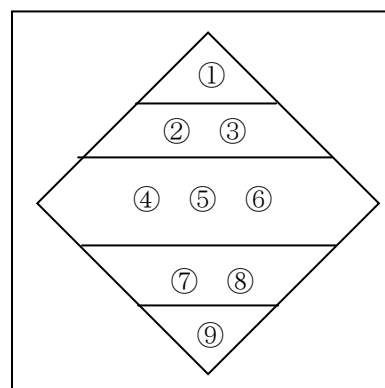
4 月 24 日の授業では、「日本は外国人労働者にとって住みやすいと思いませんか？」という質問で部屋の四隅に分かれてもらいました。そのときの意見と比べて、現在の自分の意見がどのように変化したか、なぜ変化したかその理由（根拠）を各ゲストの話など授業で学んだなかから引き出して、別紙の個別ワークシートに各自記入してください（授業後に提出。ふだんのコメントシートの提出は不要）。

ステップ 1 が終わったら、その結果を踏まえて次のステップに進みます。

【ステップ 2】 テーマ 2：「外国人住民をめぐる問題のなかでみなさんが最も重要な課題だと思ったことは何か？」

ステップ 1 の話し合いを通して在住外国人の問題を考えるうえで課題だと思ったことを、各自いくつでもポストイットに書き出してください。書き出したら、大判の紙に貼り付けます。似たような課題や共通点のある課題があったら、ひとまとめにしていき、全体をどのような言葉で表現したらよいか考えていきます。グループの中で課題が整理されたら、それを教室全体でシェア（共有）します。

次に、教室全体で共有された課題の中から、グループとして重要な課題だと思うものを 9 つ選び出し、ポストイットに書き出してください。そして、これら 9 つの課題を、緊急性の高さによって、右のダイヤモンドの図を参考にして、別の大判の白紙に並べてください。上の方が緊急性が高いもの、下の方が緊急性が低いものです。そのとき、なぜこの課題がこの順番になるのかをグ



ダイヤモンドの図

ループでよく議論してください。記録係は、順番が決まるプロセスをきちんと記録してください。順番が決まったら次のステップに進みます。

【ステップ3】テーマ3：「わたしたちは何をすべきか？」

一番上に置かれた課題について、私たちは何をすべきか、一人ずつポストイットに書き出してください。出し終わったら、グループで話し合っ、一つにまとめてください。どのレベルですべきことかは、大学生でも、地域でも、学校でも、政府でもかまいませんが、どのレベルでべきことを明らかにし、なぜその方法を選んだのか論拠をはっきりとさせてください。ステップ3が終わったら、今日の教室の中でグループワークは終了ですが、授業が終わってからが本番です。

3. プレゼンテーションの準備

1. 今日のグループワークが終わったら、プレゼンテーションの準備を始めてください。
2. ステップ3がまだ終わっていないグループは、ステップ3をまず完了してください。
3. プレゼンテーションのポイントは、次の4点です。
 - ① 「日本は外国人労働者にとって住みやすいと思ったか」についてのグループの意見
 - ② その根拠を示しながらダイヤモンドの図の提示
 - ③ なぜこの順番になったのか、グループ内での議論のプロセスの説明
 - ④ トップの課題に対して、何をすべきか、論拠を示して、グループとしての意見の提示
4. プレゼンテーションには、パワーポイントを使うことを薦めますが、下の「進め方」に従っていれば、それ以外の方法でもかまいません。

4. プレゼンテーションの進め方

1. 各グループごとに5分間の持ち時間でプレゼンテーションをおこないます。
2. 持ち時間は厳守のこと(1分以上超過した場合はプレゼンテーションを打ち切ってもらいます。また、評価から減点します)。
3. 時間内で効果的なプレゼンテーションをおこなうためには、プレゼンテーションをおこなう人、パソコンを操作する人など分担を決めておくといよいでしょう。
4. プレゼンテーションに際しては、パソコン、プロジェクター、スクリーン、拡声器用のマイクを用意します。パソコンにはパワーポイント(PowerPoint)をインストールしてあります。
5. プレゼンテーションにパワーポイントを使う場合は、作成したファイルをUSBフラッシュメモリに保存して、持ってきてください。作成したファイル名には、「グループ名(長い場合は適宜省略) 一年月日」の形式としてください(例: chikyu-20070717)。
6. これら以外の器具を使ってもかまいませんが、その場合には、グループで用意をしてください。

5. プレゼンテーションの評価

1. 各グループのプレゼンテーションに対して採点者の教員(複数)が評価をおこないます。
2. プレゼンテーションの評価は、形式(スライドの作り方や表現の仕方に工夫がされているか、10点)、内容(論旨の展開に根拠が示されて説得的であるか、10点)、独創性(提示された

結論が斬新なものであるか、10点)の3つの側面からおこない、教員一人につき30点満点とします。

3. それぞれのグループのプレゼンテーションに対するすべての採点教員の評点を合計した点数を採点教員の数で割った点数が、そのグループのプレゼンテーションの評価点となります。
4. グループに属する受講生に対しては、グループのプレゼンテーションの評価点を50点満点に換算した点数が与えられます。この点数に個別ワークシートに対する教員の評価(10点満点)を加えたものが、それぞれの受講生のプレゼンテーションの評価点(60点満点)となります。
5. この点数にふだんのレスポンス・シートの点数(40点満点)を加えたものが、それぞれの受講生の総合評価点(100点満点)となります。

「多言語・多文化社会論入門I」のこれまでの授業

4月17日	オリエンテーション	青山 亨 (東京外国語大学)
4月24日	授業の導入、アイスブレイキング、グループ分け	杉澤経子 (東京外国語大学)
5月1日	(休講)	
5月8日	ビデオ1 (フィリピンの親子の事例) : 問題群の抽出	塩原良和 (東京外国語大学)
5月15日	現場の声 : 日本で働くフィリピン女性	アガリン長瀬 (KAFIN 代表)
5月22日	現場の声 : 外国人の法的地位と在留特別許可制度	山口元一 (弁護士・第二東京弁護士会)
5月29日	議論 : フィリピンの孤児院での支援活動から見える日本社会	横田 宗 (NPO 法人 ACTION 代表)
6月5日	ビデオ2 (ペルーの家族の事例) : 問題群の抽出	青山 亨
6月12日	現場の声 : 日系労働者受け入れの背景と労働の実態	ウラノ・エジソン・ヨシアキ
6月19日	現場の声 : 日系労働者から見た日本社会の問題点	イシカワ・エウニセ・アケミ (静岡文化芸術大学文化政策学部准教授)
6月26日	現場の声 : 日本で働く外国人労働者の子どもたち	エレナズ・ジャラリ (亜細亜大学国際関係学部在学)
7月3日	現場の声 : 在日コリアンの子どもたち	宋賢進 (東京朝鮮学園東京朝鮮第二初級学校校長)

2007 年度 1 学期「多言語・多文化社会論入門 I」総合科目 VI (9441)

プレゼンテーション用・事前個別ワークシート(授業後に教室で、または翌日 206 に提出)

グループ名：					名前：
日本は外国人労働者にとって住みやすいと思うか					
4 月 24 日時点	とても	まあまあ	あまりそうでない	全くそうでない	
7 月 10 日時点	とても	まあまあ	あまりそうでない	全くそうでない	

その理由を授業の中で学んだことを根拠として示しながら述べなさい